



コーリング サーチ スペースの 設定

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「パーティションおよびコール検索スペース」を参照してください。

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

コーリング サーチ スペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリング サーチ スペースが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のコーリング サーチ スペースを見つけることができます。コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Class of Control > Calling Search Space の順に選択します。

Find and List Calling Search Spaces ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているコーリング サーチ スペースをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたコーリング サーチ スペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- CSS name (CSS 名)
- Description



(注) 該当するコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Calling Search Spaces ウィンドウから複数のコーリング サーチ スペースを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のコーリング サーチ スペースをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するコーリング サーチ スペースをクリックします。

選択したコーリング サーチ スペースがウィンドウに表示されます。

関連項目

- コーリング サーチ スペースの追加 (P.20-4)
- コーリング サーチ スペースの更新 (P.20-5)
- コーリング サーチ スペースのコピー (P.20-6)
- コーリング サーチ スペースの削除 (P.20-8)
- コーリング サーチ スペースの設定値 (P.20-10)

コーリング サーチ スペースの追加

コーリング サーチ スペースを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** **Add a New Calling Search Space** をクリックします。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 20-1 を参照)。
- ステップ 4** **Insert** をクリックして、新規コーリング サーチ スペースを追加します。
- 「Status: Insert completed」というメッセージが表示されます。
- ステップ 5** 他のコーリング サーチ スペースを追加するには、**Add a New Calling Search Space** をクリックして、ステップ 3 からの手順を繰り返します。
-

関連項目

- ・ [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- ・ [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- ・ [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- ・ [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)

コーリング サーチ スペースの更新

コーリング サーチ スペースを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** 更新するコーリング サーチ スペースを見つけます。P.20-2 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 20-1](#) を参照）。
- ステップ 4** **Update** をクリックします。
-

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

■ コーリング サーチ スペースのコピー

コーリング サーチ スペースのコピー

コーリング サーチ スペースをコピーして追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
 - ステップ 2** コピーするコーリング サーチ スペースを見つけます。[P.20-2 の「コーリング サーチ スペースの検索」](#) を参照してください。
 - ステップ 3** コピーするコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** そのコーリング サーチ スペースの **Copy** アイコンをクリックします。

ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。
 - ステップ 5** Calling Search Space Name フィールドで名前を変更します。
 - ステップ 6** 該当する設定値を更新します ([表 20-1](#) を参照)。
 - ステップ 7** **Insert** をクリックして、新規コーリング サーチ スペースを追加します。



ヒント

コーリング サーチ スペースのコピーは、コーリング サーチ スペースを見つけて表示し、**Copy** をクリックすることによっても実行できません。この場合は、コピーした後に、前述の[ステップ 6](#) および[ステップ 7](#) の手順を実行してください。

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

コーリング サーチ スペースの削除

コーリング サーチ スペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、変換パターンなどの項目が使用しているコーリング サーチ スペースは、削除できません。コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、変換パターンなどの項目を検索するには、Calling Search Space Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用中のコーリング サーチ スペースを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用中のコーリング サーチ スペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンすべてに、別のコーリング サーチ スペースを割り当てる。[P.55-2 の「Cisco CallManager へのデバイスの追加](#)」、[P.62-52 の「電話番号の設定](#)」、および [P.27-6 の「変換パターンの更新](#)」を参照してください。
- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンを削除する。[第 55 章「デバイスの設定](#)」、[P.62-56 の「電話機からの電話番号の削除](#)」、および [P.27-8 の「変換パターンの削除](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリング サーチ スペースを見つけます。[P.20-2 の「コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 削除するコーリングサーチスペースのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 コーリングサーチスペースを削除するには、**OK** をクリックします。削除を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



注意

コーリングサーチスペースを削除するときは、削除するコーリングサーチスペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリングサーチスペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリングサーチスペースを作成し直す必要があります。



ヒント

コーリングサーチスペースの削除は、削除するコーリングサーチスペースを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [コーリングサーチスペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリングサーチスペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリングサーチスペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリングサーチスペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリングサーチスペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

■ コーリング サーチ スペースの設定値

コーリング サーチ スペースの設定値

表 20-1 では、コーリング サーチ スペースの設定値について説明します。

表 20-1 コーリング サーチ スペースの設定値



フィールド	説明
Calling Search Space Name	<p>名前を Calling Search Space Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリング サーチ スペース名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリング サーチ スペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリング サーチ スペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetroCS は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリング サーチ スペースとして特定できます。</p>
Description	Description フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
Find Partitions containing	検索するパーティション名に含まれる文字を入力し、 Find ボタンをクリックします。入力した文字と一致するパーティション名が Available Partitions ボックスに表示されます。

表 20-1 コーリング サーチ スペースの設定値 (続き)

フィールド	説明
Available Partitions	<p>Available Partitions リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを Selected Partitions リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 20-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
Selected Partitions (ordered by highest priority)	<p>パーティションの優先順位を変更するには、Selected Partitions リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。</p>

■ コーリング サーチ スペースの設定値

表 20-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 20-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)